

【エクアドル内政・外交:2024年3月】

1 内政

(1)汚職事件捜査

検察庁は現在、メタスタシス事件(Caso Metástasis)及びパージ事件(Caso Purga)の捜査において、主にグアヤス県の政治家や裁判官を含む汚職ネットワークの摘発を進めている。現時点で元議員やその妻、グアヤス裁判所の元裁判長が関与しているとみられており、今後捜査を拡大し、元検察官等の関連を調べていくとしている。

(2)犯罪発生率の減少

1月の非常事態宣言発令以降、国内の犯罪発生率が顕著に減少している。非常事態宣言発令前、1月の殺人件数は870件以上にのぼると予測されていたが、実際は476件にとどまり、予想を45.59%下回った。2月も減少傾向が続き、1月に比べ23.32%減少の365件となった。国家警察及び軍隊はこの間12万9,309件のオペレーションを実施し、1万1,349人を逮捕しており、その多くは国内の刑務所で行われた。

(3)大統領支持率

11日、コンサルタント会社の Consultoría Interdisciplinaria en Desarrollo は、ノボア大統領の支持率は中南米地域において2番目に高い82%である旨発表した。一方、20日にエクアドルの主要世論調査会社である Perfiles de Opinión が実施した調査によると、ノボア大統領の支持率は就任後102日で85.47%から74.05%にまで低下した。

(4)政府による雇用政策

3月13日、ノボア大統領は、経済効率化・雇用創出法(若者の雇用を行う企業を対象とした減税等)の施行によって、昨2023年12月20日以降、6万3,890名の若者(18歳~29歳)の新規雇用を創出したことを公表した。

(5)アバッド副大統領の息子拘留

22日、駐イスラエル・エクアドル大使を務めるアバッド副大統領の息子が、副大統領府における斡旋収賄の疑いで、エクアドル検察庁による家宅捜索を受け、グアヤキルの刑務所にて公判前拘留された。アバッド副大統領は副大統領府における汚職を否定したうえで、これはノボア大統領による嫌がらせであると指摘した。

2 経済

(1)付加価値税(IVA)引き上げ

15日、ノボア大統領は大統領令189号をもって IVA の12%から15%への引き上げを行った。引き上げは4月1日より適用され、携帯電話やインターネット料金、家電製品、自動車等が対象となり、特に中間層への影響が見込まれる。

(2)IMF との交渉

エクアドルは IMF と新たな合意形成に向けた交渉を進めており、同機関と約30億米ドルの

融資プログラムを追求している。政府が発表している IVA の引き上げや燃料補助金の削減といった財政措置は交渉の一助になるとみられており、合意成立への期待からカントリーリスクも低下している。

(3) カカオブーム

コートジボワール及びガーナにおける生産問題により、国際的なカカオ価格が高止まりしている。価格は1トンあたり1万米ドルにのぼると予想され、エクアドルのカカオ農家についても1ハンドレッドウェイト(=100ポンド:約45kg)あたり最大450米ドルの収入が得られる見込み。なお、エクアドルのカカオ輸出は2023年に13億2,298米ドルに達し、2016年に比べ約2倍となった。

(4) 経済成長予測

エクアドル中央銀行は、2024年の経済成長率を1%とする見通しを明らかにした。国民投票にてヤスニ国立公園における原油掘削の一部停止が決定し、今後の原油生産量低下が影響するとみられている。一方、当初甚大な被害が予想されていたエル・ニーニョ現象の影響が小さかったことに加え、新たな貿易協定の締結といった要素が経済成長につながるとの指摘もある。

3 外交

(1) グラス元副大統領による墨への政治的庇護要請事案

1日、エクアドル外務省は、墨大使館内に滞在するグラス元副大統領を逮捕するため、当局が墨大使館内に入る許可を同大使館に要請したが、墨外務省はこれを却下した。

(2) ノボア大統領のカナダ訪問

ア カナダ・エクアドル首脳会談

5日、カナダ訪問中のノボア大統領は、トルドー加首相との間で首脳会談を行った。両首脳は、カナダとエクアドルの強い二国間関係を強調し、カナダ・エクアドル自由貿易協定(FTA)に向けた交渉開始を歓迎、両国の長期的な経済成長と安定にとって包括的な二国間協定が重要であることを強調した。また、エクアドルの持続的発展に資するよう1億2千万カナダドルの融資計画についても協議された。今次外遊には、ソメルフェルド外相、ガルシア生産貿易投資漁業大臣、アロボ・エネルギー鉱物資源大臣ほかが同行した。ノボア大統領は、同首脳会談に先立ち、メアリー・サイモン・カナダ総督と会談し、貿易、投資等について意見交換した。イ 5日、ノボア大統領は、トロントで開催されたカナダ炭鉱開発協会主催の鉱物資源フォーラムに出席し、カナダからの投資を歓迎すること、カナダとの自由貿易協定締結に向けて取り組んでいくことへの関心を有していること、エクアドルへの観光誘致国としてカナダを戦略的な同志国と考えている旨述べた。また、この機会に、カナダの鉱物関連企業との間で総額48億ドル規模の6つの投資合意文書に署名し、エクアドルにおける鉱物資源開発を進めていくことが発表された。

(3) EU との治安に関する協議

6～8日にかけて、EU とエクアドル政府が「刑務所と市民の安全保障に関する第2回国際コンセンサス会議」を実施した。エクアドル刑務所システム強化のための EU 緊急対応プログラム（EURESP）や国際組織犯罪対策支援プログラム（PAcCTO）が支援し、社会組織や専門家らが治安悪化をはじめとした社会危機への対応に関する議論を行った。

（4）ソメルフェルド外相のウィーン訪問

14～15日、ソメルフェルド外相は、ウィーンにある国連薬物犯罪事務所（UNODC）の第67回年次総会に出席した。15日には、同外相主催のラウンドテーブル対話で、エクアドルにおける暴力や犯罪組織の活動を説明し、国際社会の支援を呼びかけた。

（了）